



小山 暁 議員

和水町介護保険制度について

問 2000年度に始まった介護保険制度は、3年おきに65才以上の保険料が見直されてきているが、前回4、500円が、今回4、960円に値上げされた理由について伺う。

答 (健康福祉課長) 今回の介護保険料改定にあたっては、町介護保険運営協議会を6回開催し、介護保険事業計画を策定した上で介護保険料を設定した。今回の値上げの理由は、介護保険従事者の報酬3%アップや65才以上の一号保険者の負担割合が19%から20%になったことと、要介護認定者数の増加、更には第1期介護給付費の借入償還金等が勘案された結果で、町介護保険運営協議会は、全会一致で保険料を決定した。

問 和水町介護保険運営協議会の会長である世淵賢吾議員は『和水町介護保険条例の一部改正

(保険料値上げ)の採決では『反対』されたが一方の運営協議会では『賛成』の意見をとりまとめた立場にありながら、結果として相矛盾する行動に対し、町長はどのように思っているのか伺う。

答 (町長) このことについては、議会議員としての倫理の問題であり、議員さん方で判断されるべき問題と思う。

問 今後の介護予防対策についてどのように考えているか伺う。

答 現在、34ヶ所の身近な公民館を使って介護予防のための『お茶の間筋力トレーニング』を行っている。

今後、集落と相談しながら箇所数を増やしていきたい。

スポーツの振興について

問 総合地域スポーツクラブは、子どもから高齢者まで地域住民のだけれどもが気軽に参加でき、スポーツを中心とした『地域コミュニティづくり』を大きな目的とした公益の団体であるが、今後地域に、より密着した運営を行っていくための行政の役割について伺う。

答 (総合教育課長) 今後、クラブ活動の意義や効果について

普及・啓発を行いながら、人材の育成や運営・活動に対する支援等を行っていきたい。

問 60才以上の高齢者が生き生きと輝き、長寿を楽しめる社会の実現に向けた全国健康福祉祭『ねんりんピック』が、2011年に熊本市を主会場に県内14市町で開催されることに決定しているがベタンク競技の会場町としての和水町の今後の対応並びに受入れ準備について伺う。

答 (健康福祉課長) 和水町を全国に宣伝する絶好の機会と捉え、ベタンク競技を本町で開催することを希望していた。

今年度の準備としては、福祉係長と介護保険係長2名を担当係として配置し、来年実行委員会を設立する方向で検討中であり、今後競技団体への協力依頼や情報提供、町民に対する広報やホームページによる周知等を予定している。

更に、本年9月5日から7日まで北海道・安平町で開催されるベタンク競技(全国福祉祭)の視察研修予算も計上しており、又、昨年開催された鹿児島県始良町へも担当者を派遣することになっている。

住民参加のまちづくりについて

問 合併からすでに4年目に入ったが、わが町の『まちづくりビジョン』がなかなか見えてこない。すでに、地域づくりに対する『最初の一步』を踏み出す時がきていると思うが、住民自治に対する町長の考えを伺う。

答 (町長) 地域力を高めていくための新しいしくみづくりについて、これまで再三質問があつてはいるが、この問題についてはなかなか進まないのが実情である。今後の住民自治に関しては、議論を進めるように指示をしたい。

三加和中学校体育館補修について

問 三加和中学校体育館改修方法として、ベンチ下床の穴をあけ、換気口を増設する計画となっているが、安藤建築研究所とのその後の協議の結果と今後の工事中工予定及び完了までの工程はどうなっているのか伺う。

答 (教育長) その後の直接交渉で工事は、夏休みに入ってから子ども達の練習に支障がないように進めていきたい。



改修が計画されている三加和中体育館

問 原因究明には、相当の時間を要した三加和中体育館床下の変状原因は、通気・換気量不足であるという調査結果に対し、安藤建築研究所は事実上瑕疵を認めた。町は損害賠償については請求しないとのことだったが、その理由と今後の補修工事費用負担問題については、どうなっているのか伺う。

答 (教育長) 元の状態にきちんとしてもらえらるならば、あえて損害賠償はしない。

費用負担については、全面的に安藤建築研究所が負担するということになっているが傷んでいる部分を含めた張り替えについては、応分の負担を町はしなくてはいけないのではないかと考えている。

工法によって異なるが、概算で3、800万円ぐらいかかる予定。



高 巢 泰 廣 議員

交通安全施設(歩道)の整備について

問 本町内における歩道の

整備が近隣市町に比べ遅れており、児童の通学路、住民の生活道路は危険箇所が存在する。大牟田植木線は全く整備されていない状況であり、特に近年近隣市町への企業進出で以前に比べ交通量が大幅に増加している地区もあるのは、この様なことから、管内・県道・町道の整備予算はどの程度か伺う。

答 (町長) 国・県道は毎年緊急順位をつけ、整備要望箇所の早期着手に向け継続的に要望を図っている。歩道設置は改良事業の中での予算であり予算額は解らない。

横断歩道の設置は警察・交通安全協会と協議して対応している。地域住民・PTAより要望書が提出されている箇所は順次取り組み推進している。

問 歩道整備の計画は有しているか伺う。

答 (町長) 県道の歩道設置率は主要道路で37%、一般道路で22%、玉名管内では主要道路46%、一般道路34%で玉名管内が進んでいる。和水町の主要道大牟田植木線は歩道が全く未整備、車輦の大型化・交通量増大により、沿線住民、児童生徒の安全確保から早急な整備の必要性は充分理解している。用木地区の歩道整備は日常生活の上から重要な箇所であるところから要望書が提出されており、土木部長宛要望を重ねている。

問 危険性が高い地区の計画的な整備計画策定の必要はないか伺う。

答 (町長) 地域発展の根幹である隣接市町と接続している幹線道路は、近年急激な通過車輦の増加等で、交通弱者の危険性が增大している。危険性の高い箇所の整備は、ハード・ソフト合せて整備計画を策定する事が大事と認識している。



交通安全『歩道施設』

追加経済対策の対応について

問 政府は追加経済対策、21年度補正予算で、当町にも3億4千万円の交付が決定し

地域の実情に応じた事業展開が可能となっているが、和水町における追加対策臨時交付金関係事業の取り組みについて町長の考えを伺う。

答 (町長) 臨時交付金については、現在実施計画策定方針を各課に提示しており、この後取りまとめていく。今後各課の要望が上がって来た事業について査定を実施、その後臨時議会開催を要請して補正予算として整える。

問 具体的な取り組み方策

としての町長の考えはどうか。

答 (町長) 社会基盤の整備・産業振興・少子高齢化対策等各項目あげての質問の件、すべてに大事な対策を講じていく必要がある。今後要望書を検討し指摘の要望等を踏まえ整備したい。

問 具体的取り組みとして3点提案します。社会基盤の整備は我町がかねてより要望している「合併支援道路等」インフラ整備を前進させる好機ととらえ県当局の理解を得る努力が求められている。

次に環境対策として、ソーラー発電設備を計画的に整備してはどうか。まず町立病院に設置し光熱費の節減化を図ってはどうか。

農業振興については、大豆・飼料米等の作付振興を図る為、大豆収穫コンバイン、稲わら等の梱包機の共同利用による導入をしてはどうか。

大豆は生産から加工迄の農工商連携を町内食品会社とタイアップして大豆振興を図ってはどうか。

商業、少子高齢化対策とし

て我町には65歳以上の方が、4,113名で、全人口の34・8パーセントに当たる。日頃元気に頑張っておられる65歳以上の方を対象に、「福祉祝金」を支給してはどうか。支給方法は町内の商店のみで利用可能な「買い物振興券」で支給しては「老人福祉対策」プラス「町の商店街の活性化」が図られるのではないか。今回の交付金事業、メリハリのある予算編成を要望し提案する。

答 (町長) 社会基盤の整備は早期改良が必要なものがあると思う。

環境を考えたクリーンエネルギー化の導入は病院を問わず公共施設の太陽光発電設備は検討を要する事と思っている。

産業面の件は数多く提言がありますが、当町には大豆を使った企業もあり連携を図ってはとの件、早々に検討してみ。高齢者対策、今回の活性化資金においての福祉事業これも大事なことと思います。又、他にも思はいくつかあるが、議員からの指摘の件適切な判断をしていきたい。